

常任委員会・分科会報告(Q&A)

上程（議事日程に組み入れ議題とし、審議の対象とすること）された議案は各常任委員会及び分科会に付託されます。各委員会では、議案について当局より説明を受けるなど慎重に審査されています。

産業経済 常任委員会

Q 雪害について、補助対象にならないものなどにも、きめ細かな支援が必要と思う
がいかがか。

A 雪解け後によく話し合いをしながら、できるだけ要望に副うように検討したい。市で予算計上し、その予算の範囲内で、他の要望を吸い上げることができれば、政策会議などの場で経緯を報告しながら運用面で拡大していききたい。

Q 若年者自立支援事業の相談員について。

A 相談員の募集はハローワークで行う。若者一人ひとりに適切に対応できて、社会に出ることの大切さを教えられる、相当技量のあり、カウンセラー的な人を考えている。

Q 森林組合で、役員間の不協和音などが

Q 間こえてくるが、把握しているか。

A 役員、理事については15名の定員に対して、1月末までに4名の欠員が出ている。理由については森林組合内部の様々な整合性がとれていなかったことや、平成19年度に秋田スギニ力に対し、多額の売掛金が発生し、新執行体制になったが、それに対する不満があったと聞いている。いろいろ懸念されていることは、しっかりと森林組合に伝えたい。

Q ものづくり創造支援事業のねらいは。

A 製造業に対する国、県のハードルが高いことから、その前段階でなにか支援策はないかという思いで始めた事業である。新製品、新技術の開発奨励、販路拡大の支援など、様々組み合わせ支援していききたい。



雪による果樹の被害状況を視察（平鹿地域）

厚生 常任委員会

Q 介護施設の建設と給付費や介護保険料の関係について

A 施設入所待機者は多く、整備は必要だが小規模特養やショートステイなどの増加に伴い、どれだけの施設整備が必要かアンケートも集約して分析を進めていく。それにより保険料が上がるのが予想される。

Q 横手病院の駐車場について。

A 解体工事後に整備する予定だが、増築前の患者さん用駐車場台数は、ほぼ確保できる。

Q 5歳児健康相談について。

A 23年度から全市で年間36回開催する予定。発達障がい児の早期発見を主眼とし、集団遊びや子どもに対する問診等を行い、その結果によって専門機関などへ相談してもらう。保

育士や保健師を始め専門家を交えて対応し、保護者に認識してもらうための気づきの場を提供する。

Q ごみ減量化推進の取り組みについて。

A ごみの資源化率向上を図る。ビンの収集方法を一本化することで分別の細分化を進めることと、生ごみの減量化の可能性を調査していく。事業系ごみが増加傾向にあり、事業者に対して減量化への取り組みを要請する。

Q 駅前公共施設4階における「健康の駅」開設事業について。

A これまでの東部トレーニングセンターに比べ2倍半と広がり、器具の台数も増加する。体の柔軟性をつくる運動を充実させ、市民に健康管理の重要性を認識してもらう。



東部トレーニングセンターが入る横手駅前のY²ぶらざ